

令和2年度 「生徒による授業評価（第2回）」報告書

横須賀高校定時制

1. 「生徒による授業評価」について

（1）実施の目的

生徒の確かな学力を育成するため「生徒による授業評価」を行うことにより、教員の指導力の向上や授業の改善を図るとともに、生徒自らが学習への取組を見つめ直す機会とする。

（2）「生徒による授業評価」を踏まえた授業改善

授業評価の集計・分析結果を踏まえ、学校全体及び各教科・科目等の課題を把握し、その解決に向けて、研究授業や校内研修を実施し、授業改善に取り組む。

（3）結果の公表

授業評価の集計・分析結果及び、その課題を踏まえた授業改善の実施結果について、生徒・保護者・学校運営協議会等に公表する。

2. 「生徒による授業評価」の実施時期と方法、分析 等

（1）実施時期

年2回アンケート方式で実施する。1回目は夏季休業前に実施し、当該授業の課題等の状況を把握した。2回目は冬季休業前に実施し、課題の改善状況について把握する。

（2）調査内容（別紙1参照）

各学校共通の内容として、2つの大項目、7つの共通小項目を設け、「4 かなり当てはまる」、「3 ほぼ当てはまる」、「2 あまり当てはまらない」、「1 ほとんど当てはまらない」の4段階の評価を行った。他、本校定時制独自に「自己評価」の大項目に3つの小項目を設けて評価を行った。

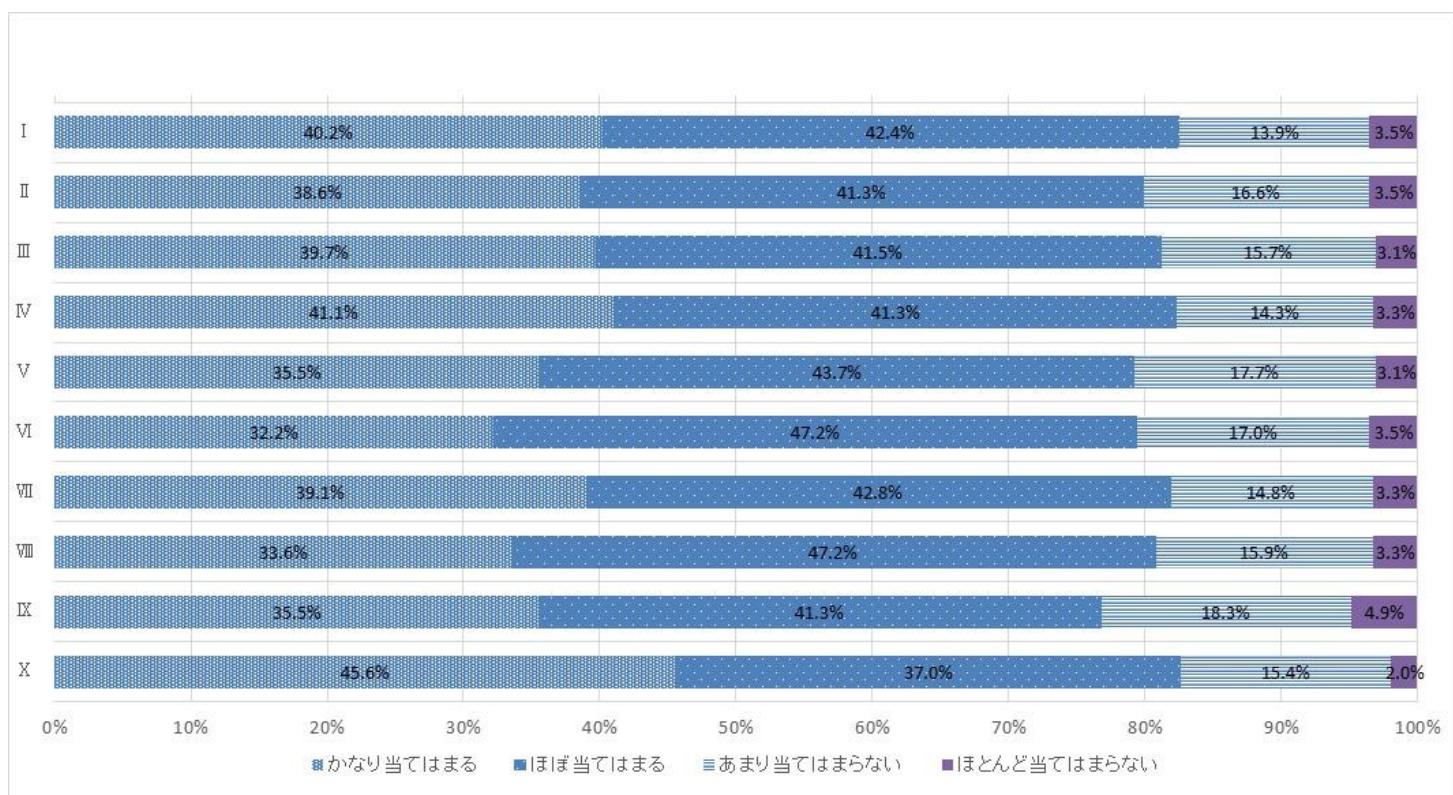
（3）分析の方法

4段階評価「4 かなり当てはまる」、「3 ほぼ当てはまる」、「2 あまり当てはまらない」、「1 ほとんど当てはまらない」のうち、調査結果の傾向を顕著に示す「4 かなり当てはまる」に焦点を当てて分析を行った。

4 調査の結果

(1) 全教科について

○全教科の共通小項目に対する4段階の評価の割合は、次の通りである。

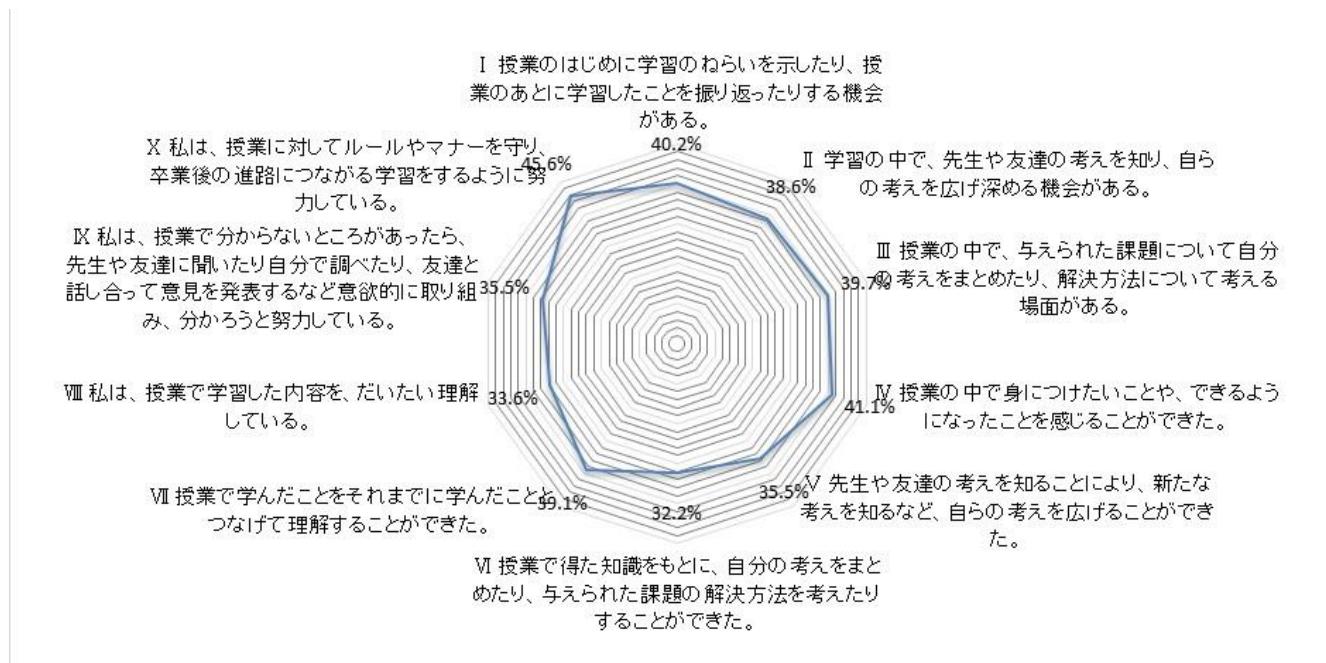


※縦軸の数字I～Xは共通小項目の数字。項目内容は第2図を参照

※ %は小数第2位を四捨五入

第1図 全教科の共通小項目集計

○全教科の共通小項目の評価の結果のうち、「4 かなり当てはまる」と回答した割合をレーダーチャートで表した。



第2図 全教科の共通小項目ごとの評価結果「4 かなり当てはまる」の割合

○各教科の共通小項目の評価「4 かなり当てはまる」を表にし、全教科で比較した。

第1表 教科ごとの共通小項目の評価「4 かなり当てはまる」の集計

小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	体育	英語	芸術	家庭	情報	総合
I	37.5%	38.2%	36.4%	45.7%	36.4%	44.0%	52.8%	36.4%	40.0%	22.7%	35.6%
II	45.8%	38.2%	36.4%	37.0%	34.1%	38.7%	43.4%	31.8%	40.0%	36.4%	40.0%
III	41.7%	32.4%	45.5%	41.3%	34.1%	38.7%	41.5%	38.6%	40.0%	40.9%	44.4%
IV	50.0%	29.4%	45.5%	43.5%	34.1%	41.3%	43.4%	45.5%	30.0%	27.3%	46.7%
V	35.4%	38.2%	31.8%	32.6%	31.8%	42.7%	37.7%	31.8%	30.0%	27.3%	37.8%
VI	35.4%	23.5%	31.8%	32.6%	25.0%	34.7%	37.7%	36.4%	45.0%	22.7%	26.7%
VII	39.6%	29.4%	40.9%	41.3%	38.6%	38.7%	45.3%	45.5%	40.0%	36.4%	31.1%
VIII	37.5%	29.4%	22.7%	28.3%	27.3%	34.7%	41.5%	40.9%	35.0%	9.1%	42.2%
IX	27.1%	26.5%	45.5%	34.8%	29.5%	36.0%	43.4%	38.6%	40.0%	36.4%	37.8%
X	47.9%	38.2%	54.5%	52.2%	40.9%	41.3%	58.5%	42.2%	35.0%	45.5%	42.2%

※塗りつぶしは教科内の割合が最も高いもの（青）と割合の最も低いもの（白）を示す

【第2回生徒による授業評価】(図1)

各共通項目とも、4段階評価「4 かなり当てはまる」と「3 ほぼ当てはまる」の評価を合わせるとほぼ75%を超えた(第1図)。

「授業の在り方について」に関する共通項目である1～3では「1 授業のはじめに学習のねらいを示したり、授業のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。」(39.8%)、「2 学習の中で、先生や友達の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。(38.4%)」「3 授業の中で、与えられた課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。」(39.3%)の割合が高くなっている。教員が授業のめあて示し、生徒が自らの考えをまとめたり深める機会を設けている様子がうかがわれる。

「学習状況」に関する項目である4～7に注目してみると「4 授業の中で身につけたいことや、できるようになったことを感じることができた。」(40.2%)、「7 授業で学んだことをこれまでに学んだこととつなげて理解することができた」(38.4%)の割合が高い。

「自己評価」に関する項目である8～10に注目してみると「10 私は、授業に対してルールやマナーを守り、卒業後の進路につながる学習をするように努力している。」(45.4%)が高く、規範意識をもつて授業に臨み、卒業後の進路の意識をもっていることがうかがわれる。

【第1回から第2回への変化】(図2)

すべての項目において、「4 かなり当てはまる」と答えた割合がすべて増加している。特に、「授業の在り方」に関する項目「III 授業の中で、与えられた課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」(34.7%→39.3%)、「学習状況」に関する項目、「IV 授業の中で身についたことや、できるようになったことを感じることができた。」(35.0%→40.2%)と大きく増加している。授業を通して、課題解決の方法を自ら考える姿勢が身につき、できるようになったと感じていることがうかがえる。

【昨年度との比較】

昨年度は共通項目4から7において、「4 かなり当てはまる」と答えた割合が増加していた。今年度はすべて項目で増加している。常に各教科で授業改善の取り組みを行った結果であると考えられる。

【各教科の変化】(第1表)

英語科ではすべて項目において、「4 かなり当てはまる」の評価が増加している。また、国語科、公民、保健体育科においては、「4 かなり当てはまる」の評価が増加している項目が多くみられる。他の教科においても、項目により大きい変化がみられる。

○教科別グラフ

